

## 基礎的・基本的な学力を高める発展的活動

— どの子にもできる発展的活動を目指して —

これからの我が国の学校教育においては、完学校週5日制のもと、「ゆとりのある中で生きる力を育む」ことを謳った今次教育改革が提唱するように、各教科等の基礎・基本の確実な定着を果たすとともに、「総合的な学習の時間」の円滑な実施を図っていくことが求められています。

そのためには、「楽しく分かる授業を展開できる教師」が求められています。併せて、教師には、家庭や地域と一層連携して、自律と協働の精神を発揮しながら、子どもたちと一緒に「価値ある文化発信の基地としての学校」をつくりあげていくことが基本の課題になると言えます。

本書は、これからの学校教育や教師に求められている要請に対するひとつの回答であり、『基礎的・基本的な学力を高める発展的活動』という書名には、そうした思いが込められています。

今日、我が国の教育界は、卒然と湧き起こってきた「学力低下論」に振り回されています。しかし、「学力低下論」者であって、子どもが進んで学びたくなる上手な教え方の大切さを説く人は少ないのです。また、総合的な学習を通して身に付く資質・能力を含めて学力を高めようという論議も少ないのです。果たしてこうした論議の仕方でよいのか、という思いを私たちは持っています。

学力向上は、もとより重視されるべきです。しかしそれは、漢字ドリルや百マス計算練習を次々と投入する方策だけではないでしょう。まして過食と嘔吐の受験学力を育てることもありません。基礎的・基本的な学力を高める日々の授業のあり方や構成こそが重要なのです。今日、注目を浴びている発展学習にしても、学習指導要領の要請を十分に満たした一部の子もだけがするものに留めてはいけないと考えています。どの子にもできる発展学習があるはずだというのが私たちの立場であり、それゆえ本書では、発展的活動という用語を使って、この問題を論じていきます。

附属学校の出版物と言え、概して先進的な開発研究を行ったものというイメージがありますが、本書はそうではありません。どの公立学校も抱える教育課題への回答の仕方を、できるだけ平易に解き明かしたつもりです。本書にいう、“メタ認知を生かした授業改善への道”として取り上げた論点、すなわち魅力ある教材の選定と開発、学力や活動の育成計画、評価規準と基準を生かした授業評価、少人数・習熟度別指導や選択学習の推進、ポートフォリオの開発などの論点は、すぐにも活用していただけると存じます。ついては、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

末尾ながら、本書の出版に際し、快く序論のご執筆をいただきました文部科学省初等中等教育局視学官の嶋野道弘先生に、また、本校全体講師として度々おいでくださり、最新の心理学の知見を生かし、温かい助言と励ましをいただきました福岡教育大学教授の大坪靖直先生に、心から感謝と御礼を申し上げます。さらに、明治図書編集部長の樋口雅子様のお力添えをいただくことで、今回もまた著書をまとめることができました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成 15 年 3 月  
福岡教育大学附属久留米小学校  
校長 寺尾 慎一